

多次元ナレッジマネジメントを可能とする高度ペタバイトXMLストレージの研究開発（株式会社メディアフュージョン）平成16年度採択評価結果

整理番号	評価点		総合所見
16-02	技術評価	38	<p>大規模なXML処理を可能とするXMLネイティブデータベースは昨今の市場で注目されつつあり、そのための研究開発は先端性がある。ペタバイトクラスのXMLデータベースが実現すれば、XMLだけで大規模なデータ通信・格納・処理が可能となり、ベンダーにおけるアプリケーション開発費の削減などのメリットにも繋がる可能性がある。アイデア自体はシンプルなものであるが、影響度、波及性は高く、研究水準もこの分野では高いと認められる。研究体制も優れている。ただし、競合他技術との比較、標準化活動、将来の見通しの具体性には不十分なところもあり、これから研究を進めていく上で検討が求められる。しかし、大学との連携で研究開発を進めるなど研究体制はしっかりしているので、かなりの成果は期待できる。</p> <p>事業化については、ベンチャー企業らしい短期間での製品開発と市場投入と合わせて実績を作る計画は妥当なものである。提案者は、XMLデータベース分野における豊富な事業実績を有しており、本業データベース販売事業における次期商品に直結する研究開発であり、社内注力度は高い。他社と競合しないデータベース市場をターゲットとしており、また検索する「キーの数」に制約を設けない検索データベース構築が可能なので、市場の一般的なDB平均成長率よりも安定した市場獲得が期待できると認められる。したがって、市場成長力が高く、また事業実績もある中での売上高予測は妥当なものである。文書データの蓄積による、大規模な文書データベースのニーズは顕在化してきており、堅実に一定規模の顧客は把握でき、事業性はあるものと判断できる。なお、事業実施にあたっては、できる限り大規模なペタバイト級サーバ環境の整備や性能のシミュレーション評価実施、また標準化活動に加え、コンソーシアム形成など標準化につながる活動戦略の検討を望む。</p>
事業化評価	41	79	